

| | |
|------|---|
| 科目名 | 宗教思想史Ⅰ 授業の到達目標及びテーマ 到達目標：旧約聖書についての基礎的知識を獲得する。 テーマ：旧約聖書の宗教思想 |
| 学期 | 授業の概要 旧約聖書の宗教思想を概説します。旧約聖書という書物の性格を概観した後、天地創造神話をはじめとする様々な内容を持つ宗教思想的な意味を解説します。 |
| 前期 | 授業計画 1. オリエンテーション 2. 旧約聖書とは？ 3. 天地創造神話の概要 4. 天地創造神話の意味 5. 神の似姿としての人間 6. 旧約聖書における人間の位置と現代 7. アブラハムによるイサクの献供 8. 出エジプトの物語 9. 十戒 10. 十戒の意味（1） 11. 十戒の意味（2） 12. 罪と許し 13. 智恵文書の思想 14. 預言者たちの言葉 15. まとめ |
| 単位数 | 2 |
| 担当者 | テキスト なし 参考書・参考資料等 関根清三『倫理の探索』中公新書 |
| 山脇雅夫 | 学生に対する評価 出席40点、小テスト20点、期末テスト40点 その他 |

| | |
|------|--|
| 科目名 | 宗教思想史Ⅱ 授業の到達目標及びテーマ 到達目標：キリスト教の宗教思想について、基礎的知識を獲得する テーマ：キリスト教の宗教思想 |
| 学期 | 授業の概要 キリスト教の宗教思想を概説します。近年明らかになってきた、イエスという人物の歴史的事実を紹介した後、キリスト教の教理を解説します。 |
| 後期 | 授業計画 1. オリエンテーション 2. 新約聖書とは？ 3. 史的イエスの問題 4. マルコの福音書の問題 5. イエスの生涯 6. 宗教批判者としてのイエス 7. イエスの思想 8. ユダヤ教イエス派からキリスト教へ 9. ペテロ 10. パウロ 11. キリスト教教理の成立（1）ニカイア前史 12. キリスト教教理の成立（2）三位一体の神 13. キリスト教教理の成立（3）三位一体論の存在論 14. キリスト教教理の成立（4）キリスト論 15. まとめ |
| 単位数 | 2 |
| 担当者 | テキスト なし 参考書・参考資料等 田川建三『イエスという男』（三一書房） 坂口ふみ『個の誕生』岩波書店 |
| 山脇雅夫 | 学生に対する評価 出席40点、小テスト20点、期末テスト40点 その他 |

| | |
|------|--|
| 科目名 | 宗教学Ⅰ（別） 世界の宗教Ⅰ 授業の到達目標及びテーマ 到達目標： テーマ：宗教学入門 |
| 学期 | 授業の概要 宗教学は19世紀に成立した比較的新しい学問です。さまざまな宗教を比較することを通して、宗教というものの本質を明らかにすることを目指します。いうならば、宗教を外側から観察して、それを客観的に考察する学問です。この授業では、宗教の四大要素（教義、儀礼、宗教体験、教団）に関する学説を中心に、宗教学の基礎を学びます。 |
| 前期 | 授業計画 1. 宗教学とは何か？ 2. 宗教の暫定的定義 3. 宗教の原初形態 4. アニミズムとマナイズム 5. 聖と俗（デュルケームの宗教論を中心に） 6. 宗教の種類 7. 宗教的存在観 8. 宗教的人間観 9. 宗教的世界観（他界観を中心に） 10. 宗教儀礼 11. 修行と祭り 12. 宗教集団の種類 13. 宗教と社会 14. 宗教体験 15. 宗教の機能 |
| 単位数 | 2 |
| 担当者 | テキスト 脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫） 参考書・参考資料等 |
| 山脇雅夫 | 学生に対する評価 期末テスト65点、小テスト20点、出席点15点 その他 |

| | |
|------|---|
| 科目名 | 宗教学Ⅱ（別） 世界の宗教Ⅱ 授業の到達目標及びテーマ 到達目標： テーマ：「かなしみ」と宗教 |
| 学期 | 授業の概要 人間の有限性の自覚に基づく無限性との邂逅に宗教の本質があるとするなら、それは「悲しみ」の感情と深いかわりを持つと考えられます。この授業では竹内整一『「かなしみ」の哲学』を読みながら、日本人の宗教性の特徴を考察することを目指します。 |
| 後期 | 授業計画 1. 「かなしみ」とは何か 2. 「かなしみ」の力 3. 「かなしみ」という言葉 4. 倫理感情としての「かなしみ」 5. 「かなしみ」と「悲」 6. 「かなしみ」と無限 7. 「かなしみ」と無常感 8. 「あきらめ」と「かなしみ」 9. 「かなしみ」と日本人の死生観 10. 死と「かなしみ」 11. 「さようなら」という言葉 12. 「みずから」と「おのずから」 13. 「やさしさ」と「かなしみ」 14. 「かなしみ」の美意識 15. 日本人のかなしみ |
| 単位数 | 2 |
| 担当者 | テキスト 教科書：竹内整一『「かなしみ」の哲学』（NHKブックス） 参考書・参考資料等 |
| 山脇雅夫 | 学生に対する評価 期末テスト65点、小テスト20点、出席点15点 その他 |

| | |
|--|---|
| 科目名 宗教の歴史Ⅰ (別) 学期 前期 単位数 2 担当者 藤田光寛 | 授業の到達目標及びテーマ 到達目標:インドのヒンドゥー教を学ぶことを通して、アジアの宗教の特色を考える視点を養い、東洋の文化の多様性を知ること。 テーマ:東洋の宗教史(1) |
| | 授業の概要 東洋の宗教のうち、ヒンドゥー教(インドの民族宗教)をとりあげて、その歴史を概説する。 |
| | 授業計画 (指定テキストのトピックスにもとづいて講義) <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ヒンドゥー教とは何か? 3. ヒンドゥー教徒の暮らしと宗教世界 4. ヒンドゥー教の時間論と宇宙論 5. ヒンドゥー教の神々と祭り 6. ヒンドゥー叙事詩の世界 7. 世界宗教としてのヒンドゥー教 8. インドス文明と原ヒンドゥー教 9. ヴェーダ聖典とバラモン教 10. ウパニシャッドの哲学と自由思想家の活躍 11. インド正統派思想の成立(六派哲学の諸体系) 12. 不二元論とヒンドゥー教有神論思想の確立 13. 近代ヒンドゥー思想の展開 14. ヒンドゥー・ナショナリズムと現代インド 15. 〃 |
| | テキスト 山下博司『ヒンドゥー教』(講談社、2004年)1,680円(本学生協で購入のこと) |
| | 参考書・参考資料等 ①脇本平也『宗教学入門』(講談社学術文庫) ②井上順孝・月本昭男・星野英紀編『宗教学を学ぶ』(有斐閣) ③奈良康明『仏教史Ⅰ』(山川出版社)pp.3-22,265-329 など |
| | 学生に対する評価 期末の筆記試験(60%)、出席(20%)小試験(20%)によって評価する。 |
| | その他 毎回、指定テキストや参考文献に目を通して授業に出席することが基本的条件です。 授業ではノートを取り、整理をしておいて下さい。 担当者のメールアドレスはfujita@koyasan-uac.jpですので、質問などがあれば遠慮無く利用して下さい。 |

| | |
|--|--|
| 科目名 宗教の歴史Ⅱ (別) 学期 後期 単位数 2 担当者 藤田光寛 | 授業の到達目標及びテーマ 到達目標:日本の宗教の特色を学ぶことを通して、アジアの文化や宗教の多様性を考える視点を養いたい。 テーマ:東洋の宗教史(2) |
| | 授業の概要 東洋の宗教のうち、日本の宗教、特に日本の民俗宗教を概説する。 |
| | 授業計画 1. オリエンテーション 2. 宗教とは? 3. 日本の民俗宗教とは? (以下、指定テキストのトピックスに基づいて講義) <ol style="list-style-type: none"> 4. 〃 5. 日本人の原風景 6. 民俗宗教の歴史 7. 〃 8. 民俗宗教の儀礼 9. 〃 10. 民俗宗教と物語 11. 〃 12. 民俗宗教の宗教的世界観 13. 〃 14. 祖霊化と仏教 15. 〃 |
| | テキスト 宮家準『日本の民俗宗教』(講談社)1,155円(本学生協で購入のこと) |
| | 参考書・参考資料等 ①脇本平也『宗教学入門』(講談社学術文庫) ②井上順孝・月本昭男・星野英紀編『宗教学を学ぶ』(有斐閣) ③奈良康明『仏教史Ⅰ』(山川出版社)pp.3-22,265-329 など |
| | 学生に対する評価 期末の筆記試験(60%)、出席(20%)小試験(20%)によって評価する。 |
| | その他 毎回、指定テキストや参考文献に目を通して授業に出席することが基本的条件です。 授業ではノートを取り、整理をしておいて下さい。 担当者のメールアドレスはfujita@koyasan-uac.jpですので、質問などがあれば遠慮無く利用して下さい。 |

| | |
|--|--|
| 科目名 国語学Ⅰ 学期 前期 単位数 2 担当者 上田恭寿 | 授業の到達目標及びテーマ 到達目標:日本語の音声・音韻、文字表記について、言語としての日本語の基本的な理解を深める。 テーマ:言語の理解 |
| | 授業の概要 藤田(2010)に沿って、日本語についての基礎的な理解を深める。原則的に講義形式で授業を行うが、できる限り、都度の小レポート等、受講者に積極的に授業へ参加してもらうようにする。 |
| | 授業計画 1. 言語と人間 二重分節性、言語の機能(1) 2. 同(2) 3. 日本語の音声・音韻 音声と音韻、単音の分類、母音(1) 4. 同(2) 5. 日本語の音声・音韻 音声器官、子音の基本事項(1) 6. 同(2) 7. 日本語の音声・音韻 清濁、拗音(1) 8. 同(2) 9. 日本語の音声・音韻 拍と音節、特殊拍、アクセントとその役割(1) 10. 同(2) 11. 日本語の文字表記 日本語の表記の特色、漢字の将来(1) 12. 同(2) 13. 日本語の文字表記 漢字の構造と用法(六書)、音と訓、国字・国訓(1) 14. 同(2) 15. 日本語の文字表記 平仮名・片仮名、ローマ字 |
| | テキスト 藤田保幸『緑の日本語教本』和泉書店 2010年 |
| | 参考書・参考資料等 適宜、指示、または、配布する。 |
| | 学生に対する評価 出席状態(30%)、授業への参加態度(10%)、および期末のレポート(60%)による。 |
| | その他 授業の進行の都合により一部変更があり得る。 |

| | |
|--|--|
| 科目名 国語学Ⅱ 学期 後期 単位数 2 担当者 上田恭寿 | 授業の到達目標及びテーマ 到達目標:日本語の語彙、文法、方言について、言語としての日本語の基本的な理解を深める。 テーマ:言語の理解 |
| | 授業の概要 藤田(2010)に沿って、日本語についての基礎的な理解を深める。原則的に講義形式で授業を行うが、できる限り、都度の小レポート等、受講者に積極的に授業へ参加してもらうようにする。 |
| | 授業計画 1. 日本語の語彙 語彙の概念、語彙量、理解語彙等、語彙調査(1) 2. 同(2) 3. 日本語の語彙 語種(和語・漢語・外来語)(1) 4. 同(2) 5. 日本語の語彙 語彙と位相(位相とは、女性語、隠語)(1) 6. 同(2) 7. 日本語の文法 学校文法とその限界、文法と言語生活(1) 8. 同(2) 9. 日本語の文法 現代の文法の考え方、隣接分野としての語用論(1) 10. 同(2) 11. 日本語の方言 方言とは、東西差、方言区画、方言圏論(1) 12. 同(2) 13. 日本語の位置 世界の中の日本語の位置、日本語の特質(1) 14. 同(2) 15. まとめ |
| | テキスト 藤田保幸『緑の日本語教本』和泉書店 2010年 |
| | 参考書・参考資料等 適宜、指示、または、配布する。 |
| | 学生に対する評価 出席状態(30%)、授業への参加態度(10%)、および期末のレポート(60%)による。 |
| | その他 授業の進行の都合により一部変更があり得る。 |

| | |
|-------|---|
| 科目名 | 授業の到達目標及びテーマ 説話の魅力にせまる。古文の読解力を身につける。 |
| 日本文学Ⅰ | |
| 授業の概要 | 平易な説話を読解することで、説話文学のおもしろさを知る。できるだけ学生の興味がわくような説話を紹介する。 |
| 授業計画 | 第1回：ガイダンス 第2回：子どもにやりこめられた孔子（宇治拾遺物語） 第3回：寝たふりをした児（ちご）の話（同上） 第4回：あだ名がついた良覚僧正（徒然草） 第5回：盗み食いをした藤六の話（宇治拾遺物語） 第6回：母を殺そうとした火麻呂（日本霊異記） 第7回：忠明の危機脱出（宇治拾遺物語と今昔物語集） 第8回：背中合わせの獅子と猫犬の話（徒然草） 第9回：二人の証空上人（徒然草と発心集） 第10回：馬泥棒を追っかける頼信父子（今昔物語集） 第11回：高野山で修行している僧の過去（沙石集） 第12回：泥棒に物を与える安養の尼上（十訓抄） 第13回：水の上を歩く僧の話（今昔物語集） 第14回：将来の病を予見した医者の話（花月草紙） 第15回：総括授業—説話の魅力— |
| 学期 | |
| 前期 | |
| 単位数 | |
| 2 | |
| 担当者 | テキスト 教員が作成したプリントを配布する。 参考書・参考資料等 授業中に指摘する。 |
| 下西忠 | 学生に対する評価 定期試験50%、授業中の小テスト30%、出席20% その他 |

| | |
|-------|--|
| 科目名 | 授業の到達目標及びテーマ 新思潮派の文学を読む。芥川龍之介と菊池寛を中心に作品を鑑賞する。 |
| 日本文学Ⅱ | |
| 授業の概要 | 新思潮派とはどのようなものか、芥川龍之介と菊池寛の作品の魅力、文学作品の深い鑑賞をじっくりと解説したい。そして受講生がより近現代文学に対する興味関心を持つことを期待するものである。 |
| 授業計画 | 第1回：ガイダンス 新思潮派とはどのようなものか 第2回：菊池寛概説 第3回：芥川龍之介概説 第4回：菊池寛（1）恩讐の彼方に 第5回：菊池寛（2）入れ札 第6回：菊池寛（3）藤十郎の恋 第7回：菊池寛（4）忠直御行状記 第8回：菊池寛（5）無名作家の日記 第9回：菊池寛（6）戯曲「父帰る」 第10回：芥川龍之介（1）往生絵巻 第11回：芥川龍之介（2）河童 第12回：芥川龍之介の児童文学と菊池寛の児童文学 第13回：菊池寛の「俊寛」 第14回：芥川龍之介の「俊寛」 第15回：総括授業 二人の作家の特質 |
| 学期 | |
| 後期 | |
| 単位数 | |
| 2 | |
| 担当者 | テキスト テキストは教員が用意する。 参考書・参考資料等 講義の中で指摘する。 |
| 下西忠 | 学生に対する評価 出席30%、レポート70% その他 |

| | |
|--------|--|
| 科目名 | 授業の到達目標及びテーマ 到達目標：フィクション制作活動、並びに、日本語小説テキストを創る日本語のことばについての理解を深める。 テーマ：フィクションについて考える。 ※4回生は履修できません。 |
| 国語学講義Ⅰ | |
| 授業の概要 | 文学、及び視覚に関わる、映画・演劇・漫画・写真や絵画・彫刻という表象におけるフィクション作品の制作活動について、また、小説テキストを創る日本語のことばについての考察する。原則的に講義形式で進めるが、受講者の積極的な授業への参加を期待する。 |
| 授業計画 | 1. フィクションテキストとは 2. フィクション（虚構）の概念（「虚」と「構」） 3. テキストにおけるフィクションの目印（1） 4. 同（2） 5. プラトン、アリストテレスのミメシス 6. フィクション活動という発話行為（1） 7. 同（2） 8. ノンフィクション小説について 9. ウォルトンによる「ごっこ遊び」としてのフィクション（1） 10. 同（2） 11. フィクションテキストの産出（1） 12. 同（2） 13. 視覚的フィクション作品の産出（1） 14. 同（2） 15. まとめ |
| 学期 | |
| 前期 | |
| 単位数 | |
| 2 | |
| 担当者 | テキスト なし。都度、プリントを配布。 参考書・参考資料等 適宜指示、または、配布。 |
| 上田恭寿 | 学生に対する評価 出席状態（30%）、授業への参加態度（10%）、および期末のレポート（60%）による。 その他 授業の進行の都合により一部変更があり得る。 |

| | |
|--------|--|
| 科目名 | 授業の到達目標及びテーマ 到達目標：日本語の日常会話と小説における伝達表現テキストの産出メカニズムについて考察し、それを通して日本語の理解を深める。 テーマ：日本語の伝達表現 ※4回生は履修できません。 |
| 国語学講義Ⅱ | |
| 授業の概要 | 日本語における引用と語法の文法的な現象をおさえた上で、コミュニケーション構造の観点から、日常会話と小説、それぞれの伝達表現テキストの産出メカニズムを考察、参照し、文法的側面とコミュニケーション構造の2側面に立った、日本語の語法の新たな規定を試みる。原則的には講義形式で進めるが、受講生の積極的な授業への参加を期待する。 |
| 授業計画 | 1. 引用とは何か 2. 「～と」という形式の文法的機能 3. 「おはよう」と言った、という表現と「おはよう」と入ってきた、という表現の差（1） 4. 同（2） 5. 「～と」のさまざまな表現 6. 日本語の直接話法と間接話法（1） 7. 同（2） 8. 引用における言い換え（「話し手投写」） 9. 直接話法と間接話法以外に話法はあるか（1） 10. 同（2） 11. 日常会話と小説のコミュニケーションの構造 12. コミュニケーションの構造から見た小説での伝達テキストの制作 13. コミュニケーションの構造から見た日常会話での伝達テキストの制作 14. 日本語の語法の新たな規定の試み 15. まとめ |
| 学期 | |
| 後期 | |
| 単位数 | |
| 2 | |
| 担当者 | テキスト なし。都度、プリントを配布。 参考書・参考資料等 適宜指示、または、配布。 |
| 上田恭寿 | 学生に対する評価 出席状態（30%）、授業への参加態度（10%）、および期末のレポート（60%）による。 その他 授業の進行の都合により一部変更があり得る。 |

| | |
|--------------------|--|
| 科目名 社会学Ⅰ | 授業の到達目標及びテーマ 到達目標：社会学が蓄積してきた基本的な思考スタイルに触れる。 テーマ：自己・他者・関係 |
| | 授業の概要 テキストには20ほどの社会学者が取り上げられている。社会学の基本的な問題意識と関連させつつ、その内容を解説していく。 |
| | 授業計画 1. ガイダンス 2. 行為と演技 (1) 3. 行為と演技 (2) 4. 行為と演技 (3) 5. 自己と他者 (1) 6. 自己と他者 (2) 7. 自己と他者 (3) 8. 意味と現実 (1) 9. 意味と現実 (2) 10. 意味と現実 (3) 11. 関係の力学 (1) 12. 関係の力学 (2) 13. 言語とコミュニケーション (1) 14. 言語とコミュニケーション (2) 15. まとめ |
| | テキスト 井上俊・伊藤公雄編『自己・他者・関係』(社会学ベーシックス1) 世界思想社 2100円。 ※生協・書店などで購入しておくこと。 |
| | 参考書・参考資料等 関心のある受講者には個別に紹介する。 |
| 学期 前期 | 学生に対する評価 ・毎回の授業時に実施する小テスト…50点 ・定期試験…50点 |
| 単位数 2 | その他 ・テキストを購入しておくこと (試験でも使用する)。 ・初回に配布するガイダンスプリントを必ず入手しておくこと。 |
| 担当者 藤吉圭二 | |

| | |
|--------------------|---|
| 科目名 社会学Ⅱ | 授業の到達目標及びテーマ 到達目標：現代文化の諸現象を社会学的視点から分析するトレーニングを積む。 テーマ：現代文化の社会学 |
| | 授業の概要 テキストには現代社会を考えるうえで重要な15ほどの文化現象が取り上げられ、その意義やそれを考察するための社会学的視点が紹介されている。これらのうちいくつかを選び、解説していく。 |
| | 授業計画 1. ガイダンス 2. 流行としての現代文化 (1) 3. 流行としての現代文化 (2) 4. 流行としての現代文化 (3) 5. 流行としての現代文化 (4) 6. 流行としての現代文化 (5) 7. 民俗としての現代文化 (1) 8. 民俗としての現代文化 (2) 9. 民俗としての現代文化 (3) 10. 民俗としての現代文化 (4) 11. 変容する現代文化 (1) 12. 変容する現代文化 (2) 13. 変容する現代文化 (3) 14. 変容する現代文化 (4) 15. まとめ |
| | テキスト 小川伸彦・山泰幸編『現代文化の社会学入門』 ミネルヴァ書房 2940円 ※生協・書店などで購入しておくこと。 |
| | 参考書・参考資料等 関心のある受講者には個別に紹介する。 |
| 学期 後期 | 学生に対する評価 ・毎回の授業時に実施する小テスト…50点 ・定期試験…50点 |
| 単位数 2 | その他 ・テキストを購入しておくこと (試験でも使用する)。 ・初回に配布するガイダンスプリントを必ず入手しておくこと。 |
| 担当者 藤吉圭二 | |

| | |
|---------------------------|---|
| 科目名 現代の人権と福祉(別) | 授業の到達目標及びテーマ 到達目標：現代において特に論争の焦点となっている法的権利について、その法的背景なども視野に入れた上で理解すること、及び批判的思考ができること。 |
| | 授業の概要 授業はパワーポイントを利用し講義形式とします。 現代社会においては憲法に規定された従来の伝統的な人権の枠組みでは捉えきれない新たな人権が重要となってきています。本講義は、憲法上の「新しい人権」及び権利の現代的展開に焦点を当てながら、法的な側面から現代社会を理解しようとする試みです。 |
| | 授業計画 社会において現代の人権と関わる新たな法的問題が発生すれば、それを優先的に扱いますし、参加する学生諸君の関心にもなるべく、応えていこうと思っております。適宜変更の可能性がございます。 1. イントロダクション (人権概念) 2. 国際的人権保障 (紛争と人権) 3. 国際的人権保障 (国際的な人権保障の枠組み) 4. 憲法総論 (幸福追求権・自己決定権) 5. 医療における自己決定権 (治療選択の権利・死ぬ権利) 6. 新たな医療技術とそれを用いる権利 (子どもを産む権利) ① 7. 新たな医療技術とそれを用いる権利 (子どもを産む権利) ② 8. 人の選別と優生思想 (選択的堕胎と受精卵診断) ① 9. 人の選別と優生思想 (選択的堕胎と受精卵診断) ② 10. 公害問題と環境権 (日本の環境保護法制) 11. 地球温暖化問題と京都議定書 (国際社会の取り組み) 12. プライバシーと政治監視 (プライバシー権と知る権利) 13. 新たな家族と日本の家族制度 (戸籍・民法改正・同性婚) 14. 裁判と犯罪被害者の権利 (新たな法制度) 15. 国民の司法参加 (裁判員制度) |
| | テキスト 特に指定しない。 |
| | 参考書・参考資料等 竹下賢・沼口智則・角田猛之・竹村和也『入門法学』(第三版) |
| 学期 後期 | 学生に対する評価 定期試験により50%、授業参加及び(課した場合には)小テストやレポートなどにより50% |
| 単位数 2 | その他 受講者は(あるいは大学生はそもそも)新聞や毎日のニュースに関心を持つことが必要です。 |
| 担当者 竹村和也 | |

| | |
|--------------------------|--|
| 科目名 法学Ⅰ(日本国憲法) | 授業の到達目標及びテーマ 到達目標：憲法の基本的な枠組みと幾つかの権利に関して基本的な理解を得ること、及び批判的な思考ができること。 |
| | 授業の概要 憲法は国の基本的なあり方を定めた法であり、また基本的な理念や価値を定めた法でもあります。本講義では憲法の中の人権規定とそれに関連するほかの法分野について、特に現代社会において問題となっている権利に焦点を当てます。特に裁判員制度の開始を迎えて捜査・裁判における人権と、国民投票法制定に応じて憲法改正に焦点を置きます。 |
| | 授業計画 憲法と関わる新たな社会的問題が発生すれば、それを優先的に扱いますし、進度により適宜変更の可能性はありますから、あくまで目安として、 1. イントロダクション (近代憲法と立憲主義) 2. 日本国憲法の成立をめぐる問題① 3. 日本国憲法の成立をめぐる問題② 4-7. 日本国憲法の基本原理 8. 刑事司法の過程と身体的自由権 (捜査と被疑者の権利) ① 9. 刑事司法の過程と身体的自由権 (捜査と被疑者の権利) ② 10. 刑事司法の過程と身体的自由権 (裁判と被告人の権利) ① 11. 刑事司法の過程と身体的自由権 (裁判と被告人の権利) ② 12. 国民の司法参加と裁判員制度① 13. 国民の司法参加と裁判員制度② 14. 平等権と家族① 15. 平等権と家族② |
| | テキスト 特に指定しない。 |
| | 参考書・参考資料等 竹下賢・沼口智則・角田猛之・竹村和也『入門法学』(第三版) |
| 学期 後期 | 学生に対する評価 定期試験により50%、授業参加及び(課した場合には)小テストやレポートなどにより50% |
| 単位数 2 | その他 受講者は(あるいは大学生はそもそも)新聞や毎日のニュースに関心を持つことが必要です。 |
| 担当者 竹村和也 | |

| | | |
|-----------------------------------|---|----------------------------------|
| 科目名 情報処理 I-1 情報処理 I-2 | 授業の到達目標及びテーマ | |
| | 到達目標: コンピュータソフトの Word, Excel, Power Point の基本的な操作方法を習得し、高度情報化社会で役立つパソコンスキルの向上を目指す。また、Power Point を活用して、プレゼンテーション能力を高める。 テーマ: 基礎から学習することにより、各ソフトの基本的な事柄を習得し、パソコン活用のスキルを高めることを目的とする。 | |
| | 授業の概要 | |
| | 本講義では、コンピュータソフトの Word, Excel の基本的な操作方法を習得し、パソコンのスキルを高め、レポート作成や発表が十分に行えるようになる事を目標とする。さらに、Power Point を用いてデジタルプレゼンテーションのための技法を習得する演習を行い、各段階のまとめとしてグループごとにプレゼンテーションと相互評価を実施する。授業の後半では、コンピュータウイルスや不正アクセスを防ぐ方法や、情報モラルについて学習する。 | |
| | 授業計画 | |
| | 【前期】 | 【後期】 |
| | 1. コンピュータの操作方法 | 1. はじめに |
| | 2. Word の基本操作 | 2. Excel を用いた統計解析 - データ入力 |
| | 3. Word を活用した資料作成 | 3. Excel を用いた統計解析 - データの検索、グラフ作成 |
| | 4. Word を活用した文書作成【課題】 | 4. Excel を用いた統計解析 - 度数分布表とヒストグラム |
| 5. Excel の基本操作 | 5. Excel を用いた統計解析 - 平均値、分散・標準偏差 | |
| 6. Excel を活用した資料作成① | 6. Excel を用いた統計解析 - 相関係数 | |
| 7. Excel を活用した資料作成② | 7. Excel を用いた統計解析 - クロス集計表 | |
| 8. Excel を活用した資料作成【課題】 | 8. Excel を用いた統計解析【課題】 | |
| 9. Power Point の基本操作 | 9. Word を用いた文章作成① | |
| 10. Power Point を活用した資料作成① | 10. Word を用いた文章作成② | |
| 11. Power Point を活用した資料作成② | 11. PowerPoint を活用した資料作成① | |
| 12. Power Point を活用したプレゼンテーション | 12. PowerPoint を活用した資料作成② | |
| 13. セキュリティについて | 13. PowerPoint を活用した資料作成③ | |
| 14. 情報モラルについて | 14. PowerPoint を活用したプレゼンテーション | |
| 15. まとめ | 15. まとめ | |
| 学期 | テキスト | |
| 通期 | 授業時にプリントを配布する。 | |
| 後期 | 参考書・参考資料等 | |
| 単位数 | 希望者には個別に紹介する。 | |
| 1 | 学生に対する評価 | |
| 2 | ・授業時に実施する小テスト…50点 | |
| + | ・定期試験…50点 | |
| 1 | その他 | |
| 1 | ・初めに配布するガイダンスプリントを必ず入手しておくこと。 | |
| 担当者 | ・受講希望者多数のばあい初回授業で抽選によって決める。初回に欠席したばあい自動的に受講できなくなる可能性がある。 | |
| 藤吉圭二 | | |

| | | |
|---------------------------|---|--|
| 科目名 仏教芸術 1(別) | 授業の到達目標及びテーマ | |
| | 到達目標: 芸術作品の素晴らしさを味わい、その深さを見つけ出す自分に気づくこと テーマ: 仏画を描く | |
| | 授業の概要 | |
| | まず筆を持って描くことから始めよう。白描画像の制作である。敦煌の仏画を中心に、特色のあるものを時代別に選んで、その形を意識しながら線を書く。受講する者は、筆を持って線を書くことにより、その図像が「なぜ素晴らしいといえるのか」を発見するだろう。芸術作品の素晴らしさを味わい、その深さを見つけ出す自分に気づくように指導したい。 | |
| | 授業計画 | |
| | 1. シラバスの説明、講義の進め方について説明する。 | |
| | 2. 基礎1 手の形、顔の形の線の練習 I・II | |
| | 3. 基礎1 手の形、顔の形の線の練習 III・IV | |
| | 4. 基礎1 手の形、顔の形の線の練習 V・VI | |
| | 5. 基礎1 手の形、顔の形の線の練習 VII・VIII | |
| 6. 基礎1 手の形、顔の形の線の練習 IX・X | | |
| 7. 基礎2 仏・菩薩等の全体を描く I・II | | |
| 8. 基礎2 仏・菩薩等の全体を描く III・IV | | |
| 9. 基礎2 仏・菩薩等の全体を描く V・VI | | |
| 10. 作品 紺地金泥の作品を作る I | | |
| 11. 作品 紺地金泥の作品を作る II | | |
| 12. 作品 紺地金泥の作品を作る III | | |
| 13. 作品 紺地金泥の作品を作る IV | | |
| 14. 高野山 宝鏡の見学 | | |
| 15. 総括 | | |
| 学期 | テキスト | |
| 前期 | コピーを配布する。 | |
| 後期 | 参考書・参考資料等 | |
| 単位数 | 授業で指示する。 | |
| 1 | 学生に対する評価 | |
| 1 | 書写作品70% 出席30% | |
| 担当者 | その他 | |
| 静 | 筆・紙等の教材費として5,000円個人負担となります。初回に納入してください。 | |
| 慈 | どなたも受講できます。 | |
| 園 | | |

| | | |
|---------------------|--|--|
| 科目名 仏教芸術 2(別) | 授業の到達目標及びテーマ | |
| | 到達目標: 彩色の方面から芸術品の深さを知る。 テーマ: 仏画を彩色する。 | |
| | 授業の概要 | |
| | ここでは仏画を描く基本(線描)を修得した上で、彩色を習います。彩色は説明だけでは理解できませんので、全て実践です。自分で彩色をしながら、各種の仏画を鑑賞し、彩色の方面から芸術品の深さを知ることを目標にします。 | |
| | 授業計画 | |
| | 1. シラバスの説明、講義の進め方について説明する。 | |
| | 2. 用具をそろえる。 | |
| | 3. 膠の溶かし方 | |
| | 4. 絵の具を選ぶ | |
| | 5. 平塗りとはかしの技法 | |
| 6. はかしの技法 1 | | |
| 7. はかしの技法 2 | | |
| 8. 暈網彩色の実習 1 | | |
| 9. 暈網彩色の実習 2 | | |
| 10. 暈網彩色の実習 3 | | |
| 11. 暈網彩色の実習 4 | | |
| 12. 暈網彩色の実習 5 | | |
| 13. 暈網彩色の実習 6 | | |
| 14. 鑑賞 | | |
| 15. 総括 | | |
| 学期 | テキスト | |
| 後期 | コピーを配布する。 | |
| 単位数 | 参考書・参考資料等 | |
| 1 | 授業で指示する。 | |
| 担当者 | 学生に対する評価 | |
| 静 | 書写作品70% 出席30% | |
| 慈 | その他 | |
| 園 | 絵の具・絵の具皿・彩色筆等の教材費として5,000円個人負担となります。初回に納入してください。 | |
| | どなたでも受講できます。 | |

| | |
|--|---|
| 科目名 伝統文化Ⅰー1(芸能)十伝統文化Ⅰー2(芸能) 企画科目(芸能) | 授業の到達目標及びテーマ 到達目標:【前期】初歩的な曲の演奏ができるよう、楽譜の読みと奏法の理解を目的とする。 【後期】初歩的な曲の合奏と、邦楽の音楽的特徴の理解を目的とする。 テーマ:【前期】地歌琴曲入門一巻(琴)を弾いてみようー 【後期】地歌琴曲入門一巻で合奏してみようー |
| | 授業の概要 【前期】地歌琴曲は、古典芸能でありかつ発展を続ける、世界の諸音楽に比肩する音楽である。本講義は、男性盲人音楽家たちが担ってきた地歌琴曲の歴史に関する講義を交え、琴の演奏実習を中心に進めていく。 【後期】古代中国から雅楽、古謡、箏曲へと展開した楽理に関する講義を交え、箏の演奏実習を中心に進めていく。日本人の音楽嗜好、感性の働き方、精神性へと、学生諸氏の思考深化をも促したい。 |
| | 授業計画 【前期】 1. 琴に触ってみよう、鳴らしてみよう 2. 爪、座り方、各部分の名称・演奏実習 3. 地歌とは、箏とは・演奏実習 4. 柱の立て方、はずし方・演奏実習 5. 楽譜についての講義(ビデオ鑑賞) 6. 種々奏法と楽譜の記号・演奏実習 7. 同上 8. 練習曲「さくら」・「荒城の月」の実習 9. 同上 10. 邦楽の歴史について(講義) 11. 「三段の調べ」の実習 12. 同上 13. 同上 14. 同上 15. 筆記・実技試験 【後期】 1. 「三段の調べ」の他パートとの合奏実習 2. 同上 3. 「さくら変奏曲」の実習 4. 「さくら変奏曲」の他パートとの合奏実習 5. 邦楽の歴史について(講義) 6. 「笛の音」の実習 7. 同上 8. 箏の調絃法と邦楽の楽理(講義) 9. 管内鑑賞会、もしくはビデオ鑑賞 10. 「笛の音」の他パートとの合奏実習 11. 各受講学生の発表曲復習 12. 同上 13. 同上 14. 同上 15. 試験に代えて、受講学生の演奏発表会 |
| | テキスト 楽譜は講師を通じて随時一括購入する。爪は初回講義の折に指の号数を確認して注文する。 |
| | 参考書・参考資料等 参考資料は随時コピーで配布する。 吉川英史『日本音楽の歴史』創元社 他 |
| | 学生に対する評価 音楽を真剣に楽しむ授業態度70%、演奏技術10%、筆記・実技試験20% 但し上記%に関係なく、欠席1回マイナス5点とする |
| | その他 ・初心者向けだが、経験者も歓迎する。 ・「箏は女性の弾くもの」という誤った通念があるようだが実態は全く異なる。偏見を捨てて、音楽好きな学生は男女を問わず積極的に受講してほしい。 ・後期は、「地歌琴曲入門一巻を弾いてみようー」(前期)を受講済みの者だけが、受講できる。 ・年間を通じて受講した後、卒業までに更に2期(前期、後期いずれかの)単位を取得した場合、本人が希望し、かつ技能が相当と認められる者には、有料で(財)日本結核教育奨励会認定の「初伝」免許を認認することができる。 ・楽器の数量に限りがあるため受講者を20名に制限する。 |
| | 担当者 桜野清里 |
| | 学期 前期 通年 後期 |
| | 単位数 1 2 1 |

| | |
|--|--|
| 科目名 伝統文化Ⅰー1(茶道)十伝統文化Ⅰー2(茶道) 企画科目(茶道) | 授業の到達目標及びテーマ 到達目標:茶道は人間の精神性や美意識だけでなく、日常のさりげない所作や経済的な営みなど人間生活全般に通じる日本の伝統文化です。この茶道を通して、自然や人を豊かな心で見たり考えたりする力を養い、そこから確かな「過去」と出会い、自分の「今」と「未来」を、考える、つまり茶道を学ぶことで自分自身の展望を持つ契機となるよう、学習を進めていきたいと考えています。そして、茶道が如何に日常生活と密着し工夫されて今日に生かされているかを見ながら、日本文化とは何か、日本文化が果たす役割は何かを考究し、総合的文化体系茶道を有する日本の再発見につなげて行きたいと考えています。 テーマ:「伝統と創造」 続いてきた伝統 続いていく伝統 |
| | 授業の概要 喫茶の始まりから今日に至るまでの茶道の歴史や思想を知ると共に点前(薄茶を点てる)、茶会に招かれた時の客の心を修得します。加えて、茶の湯の歴史、茶の思想、茶会、茶道具、茶室、茶花の味わいなど、茶の湯の基礎知識を総合的に学びます。 |
| | 授業計画 【前期】 ・「茶の歴史」伝来から今日まで ・「茶の思想」茶の湯の背景にある思想について紹介し、茶の心を読み取ります。 ・修得した点前を本に茶会を企画し工夫とはたらきによって、一期一会の創造的茶道を実践します。 【後期】 ・「茶の歴史」伝来から今日まで ・「茶の思想」茶の湯の背景にある思想について紹介し、茶の心を読み取ります。 ・修得した点前を本に茶会を企画し工夫とはたらきによって、一期一会の創造的茶道を実践します。 ・「炉開き」「茶寮の口切り」「蘭茶」「初釜」など、おりおりの茶会を体験し、茶の湯の要素や本質について認識を深め、茶の湯の面白さを見つけてみます。 |
| | テキスト 必要に応じて資料、プリントを配布します。 |
| | 参考書・参考資料等 授業時に紹介します。 |
| | 学生に対する評価 出席日数を含む平常点と、レポートと提出物の点を総合して評価します。 授業は通年です。前期のみ、後期のみは評価いたしません。 |
| | その他 実習の費用は前期・後期各3,000円必要です。 学生参加型授業です。 受講生が多い場合は、選抜いたします。 |
| | 担当者 杉本みちる |
| | 学期 前期 通年 後期 |
| | 単位数 1 2 1 |

| | |
|--|--|
| 科目名 伝統文化Ⅰー1(華道)十伝統文化Ⅰー2(華道) 企画科目(華道) | 授業の到達目標及びテーマ 到達目標:【前期】日本の伝統文化である華道の歴史の理解と基本的実技の修得。 【後期】高野山の伝統行事(年中行事)に生けられる伝統華・荘厳真華の理解 テーマ:【前期】日本の華道史と華道実技の基本 【後期】華道高野山の代表華である真華の修得 |
| | 授業の概要 【前期】仏様にお花をお供えしたのが始まりとされる日本の華道の歴史を現代まで解説すると共に、華道の基本の解説と実技の実習を行なう。 【後期】高野山の伝統行事が行なわれる会場を荘厳する真華の解説と真華の実技実習。 |
| | 授業計画 【前期】 1. ガイダンス 2. 華道高野山についての解説 3. 供華様式から投入花の解説 4. 投入花から現代花の解説 5. 盛花の解説 6. 盛花の実技実習 7. 盛花の変化態の解説と実習 8. 投入花の解説と実習 9. 投入花の変化態の解説と実習 10. 格花の解説と実習 11. 格花の変化態の解説と実習 12. 自由化の解説と実習 13. 自由化のテーマのもとめ方と実習 14. 実技テスト 【後期】 1. 真華の解説 2. 五段華の解説 3. 五段華の実技実習 4. 真華実習(1) 5. 真華実習(2) 6. 二つ真の解説 7. 仏生会の華の解説 8. 白羽の矢竹の解説 9. 小品真華の解説と実習 10. 法印転衣式の華の解説 11. 合真の解説 12. 元三の花の開設 13. 万年青の解説と実技 14. 実技テスト |
| | テキスト 華道高野山教本 |
| | 参考書・参考資料等 特に無し |
| | 学生に対する評価 実技定期試験50%、小試験20%、出席30% |
| | その他 実技実習時に花材費800円~1,000円必要です。 |
| | 担当者 五味和樹 |
| | 学期 前期 通年 後期 |
| | 単位数 1 2 1 |

| | |
|--------------------------------|---|
| 科目名 宗教芸能Ⅰー1(詠歌) 企画科目(詠歌) | 授業の到達目標及びテーマ 到達目標:将来の御詠歌指導者の養成を目指す。 テーマ:心に響く宗教音楽として現代にも広く伝える御詠歌を学ぶ。 |
| | 授業の概要 【前期】スライドショー等で譜の見方、楽理などを解りやすく解説する。楽器等を併用し親しみやすい御詠歌の指導方法を学ぶ。 【後期】前期の目標・テーマの完成を目指すために基礎となる詠歌・和讃を学び積極的に唱えるよう研鑽を深める。 |
| | 授業計画 【前期】 1. 御詠歌・和讃の概要(譜の見方・歴史など) 追用和讃 2. 追用和讃・楽理 3. 龍華 4. 龍華 5. 父母感恩和讃 6. 父母感恩和讃・楽理 7. 追用和讃・楽理 8. 龍華 9. 龍華 10. 父母感恩和讃・楽理 11. 父母感恩和讃 12. 追用和讃・龍華・父母感恩和讃 13. 実技及び筆記試験 【後期】 1. 前期総括 2. 高野山開創和讃 3. 高野山開創和讃 4. 光明・楽理 5. 光明 6. 礼打ち和讃 7. 礼打ち和讃・楽理 8. 礼打ち和讃 9. 高野山開創和讃 10. 光明・楽理 11. 光明 12. 礼打ち和讃 13. 礼打ち和讃・楽理 14. 後期履修曲復習 15. 実技・筆記試験 |
| | テキスト 高野山金剛流御詠歌教典・同和讃集・楽理教典・法具(教務課に貸出有り) |
| | 参考書・参考資料等 金剛講必携・鈴鉦のひびき・高野山金剛流詠歌・和讃の解説 |
| | 学生に対する評価 実技試験70% 出席30% |
| | その他 1. 後期履修希望者は前期履修の後、受講すること。 2. 詠階は前期、後期を履修したものに限り与える。 |
| | 担当者 村上上山 公秀雄 教道慈 |
| | 学期 前期 通年 後期 |
| | 単位数 1 2 1 |

| | | |
|-----|--|--|
| 科目名 | 宗 教 芸 能 II-1 企 画 科 目 (舞 踊) | 授業の到達目標及びテーマ 到達目標：【前期】宗教舞蹈の基礎を身につける。 |
| 学期 | 通 年 | 授業の概要 【後期】練習を積み重ねることにより、心・技・体を磨き、宗教舞蹈の楽しさ（法悦）を感得 |
| 単位数 | 1 2 + 1 | 授業計画 【前期】 1. 宗教舞蹈を見てみる。宗教舞蹈の基本的理念・法具（持ち物）の扱い方の解説。 2. 教典の譜の見方を学ぶ。「同行二人」により身体の動かし方の基本を学ぶ。 3. 「同行二人」 4. 〃 5. 〃 6. 〃 7. 「同行二人」仕上げ 8. 「遍照尊」 9. 〃 10. 〃 11. 〃 12. 〃 13. 「相互供養和讃」仕上げ 14. 〃 15. 「遍照尊」仕上げ 【後期】 1. 「いろは歌」 2. 〃 3. 〃 4. 「楊柳」 5. 〃 6. 〃 7. 〃 8. 「楊柳」仕上げ 9. 「相互供養和讃」 10. 〃 11. 〃 12. 〃 13. 「相互供養和讃」仕上げ 14. 復習曲 15. 復習曲。 |
| 担当者 | 高 野 山 金 剛 流 宗 教 舞 踊 基 本 教 典 は じ め て の 「 高 野 山 宗 教 舞 踊 」 入 門 | テキスト 舞踊1曲ずつの教典 |
| 担当 | 副 学 長 (教 務 担 当) | 参考書・参考資料等 高野山金剛流宗教学基本教典 はじめての「高野山宗教学」入門 |
| 担当 | 高 野 山 金 剛 流 宗 教 舞 踊 基 本 教 典 は じ め て の 「 高 野 山 宗 教 舞 踊 」 入 門 | 学生に対する評価 出席40% 実技評価40% 筆記試験20% |
| 担当 | 高 野 山 金 剛 流 宗 教 舞 踊 基 本 教 典 は じ め て の 「 高 野 山 宗 教 舞 踊 」 入 門 | その他 ・ 属は貸与準備あり。 ・ 前期・後期履修者は舞階昇降できる。 ・ 全国奉詠舞大会に学園（大学）奉舞できる。 |

| | | |
|-----|---------------------------------------|---|
| 科目名 | 巡 礼 ・ 遍 路 II 企 画 科 目 (巡 礼 ・ 遍 路) | 授業の到達目標及びテーマ 到達目標：巡礼・遍路を実施する。 テーマ：古代からの〈信仰の道〉を歩こう |
| 学期 | 半 期 通 年 半 期 | 授業の概要 四国八十八カ所やアジアの仏跡巡りなど、古代からの〈信仰の道〉を歩き訪ねることによって、各自が古代から現代にいたる人々の信仰の何たるかを考え、理解することを目的とする。 |
| 単位数 | 1 2 + 1 | 授業計画 1. 受講登録期間に「巡礼・遍路」を受講登録する。 ※時間外の授業科目なので授業はありません。教務係にて説明を受けてください。 2. 巡礼先や時期などを企画し、企画立案書（様式自由）を教務係に提出する。 3. 提出された企画書を教務委員会で審査し、合格すれば実施を許可し、修正の必要がある場合は再提出を求める。 4. 巡礼・遍路の実施 ※講義のない期間・時間に実施してください。履修重複にあたるため、有効欠席にはなりません。 ※2単位（1単位）=企画～報告にいたるまで、通年90時間（半期45時間）程度の内容が求められます。 5. 実施結果報告書（様式任意）を後期レポート提出期限までに教務係へ提出する。 ※実施したことが確認できるものがあれば、できるだけ添付してください。 |
| 担当者 | 副 学 長 (教 務 担 当) | テキスト 特になし。 |
| 担当 | 副 学 長 (教 務 担 当) | 参考書・参考資料等 特になし。 |
| 担当 | 副 学 長 (教 務 担 当) | 学生に対する評価 レポートで評価する。 |
| 担当 | 副 学 長 (教 務 担 当) | その他 |

| | | |
|-----|---|---|
| 科目名 | ボ ラ ン テ ィ ア II 企 画 科 目 (ボ ラ ン テ ィ ア) | 授業の到達目標及びテーマ 到達目標：ボランティアを実践する。 テーマ：可能性に挑戦しよう |
| 学期 | 半 期 通 年 半 期 | 授業の概要 この授業は、各自が興味や関心を持っているさまざまなボランティア活動に参加することによって、社会の実際的な知識と人びととの関係を学び、その体験が将来を考える上での糧となることをねらっている。 |
| 単位数 | 1 2 + 1 | 授業計画 ①学生諸氏が自分で企画し、実行し、報告（評価）する。必要に応じて教員が指導する。 受講の手続 1. 受講登録期間に「ボランティア」を受講登録する。 ※時間外の授業科目なので授業はありません。教務係にて説明を受けてください。 2. 企画立案書（様式自由）を作成し、教務係に提出する。 3. 提出された企画書を教務委員会で審査し、合格すれば実施を許可し、修正の必要がある場合は再提出を求める。 4. ボランティア実施 ※講義のない期間・時間に実施してください。履修重複にあたるため、有効欠席にはなりません。 ※2単位（1単位）=企画～報告にいたるまで、通年90時間（半期45時間）程度の内容が求められます。 5. 実施結果報告書（様式任意）を後期レポート提出期限までに教務係へ提出する。 ※実施したことが確認できるものがあれば、できるだけ添付してください。 ②大学が一般（本学学生も可）に募集したボランティアの企画を学生に提供し、それに応募し参加することで単位認定を受ける方法もあります。随時、大学ホームページや掲示板等でボランティアに参加する学生を募集しますので、応募してください。 |
| 担当者 | 副 学 長 (教 務 担 当) | テキスト 特になし。 |
| 担当 | 副 学 長 (教 務 担 当) | 参考書・参考資料等 特になし。 |
| 担当 | 副 学 長 (教 務 担 当) | 学生に対する評価 レポートで評価する。 |
| 担当 | 副 学 長 (教 務 担 当) | その他 |

| | | |
|-----|-----------|--|
| 科目名 | 博 物 館 概 論 | 授業の到達目標及びテーマ 到達目標：近年一部の改正をみた博物館法の概要を知り、学芸員になる為の知識の習得を目指す。合わせて博物館のたどってきた歴史を知った上で、現代における博物館の問題と役割を理解する。 テーマ：これまでの博物館とこれからの博物館 |
| 学期 | 前 期 | ※4回生のみ履修可。 |
| 単位数 | 2 | 授業の概要 学芸員になる為には、まず博物館を知ることが肝要である。博物館を知るとは、その歴史・法律などは当然のこと、現在の博物館界が抱える様々な問題を理解しなければならない。本講義では、学芸員になるための基本的な知識とこれからの博物館像をともに考えていくこととしたい。 |
| 担当者 | 友 鳴 利 英 | 授業計画 1. 講義概要 2. 博物館とは 3. 博物館に関する法律1（博物館法・施行細則） 4. 博物館に関する法律2（博物館法・施行細則） 5. 博物館に関する法律3（文化財保護法） 6. 博物館の歴史1 7. 博物館の歴史2 8. 博物館の歴史3 9. 高野山霊宝館の歴史と文化財 10. 博物館を楽しむ視点（博物館を理解するために） 11. 博物館に行こう 12. 博物館学芸員の現状と課題 13. 現代社会と博物館 14. まとめ 15. 試験 |
| 担当 | 友 鳴 利 英 | テキスト 特になし。適宜プリント配布。 |
| 担当 | 友 鳴 利 英 | 参考書・参考資料等 特になし。 |
| 担当 | 友 鳴 利 英 | 学生に対する評価 期末の試験（60%）講義への参加態度（10%）、出席状況（30%）によって評価する。 3回以上の欠席は単位を認めない。 |
| 担当 | 友 鳴 利 英 | その他 一方的な講義形式ばかりではなく、講義に対しての受講者の考えを問う形も適宜取り入れていきたい。 途中、実地学習として高野山霊宝館の見学を行う。 |

| | |
|------------------|--|
| 科目名 | 授業の到達目標及びテーマ |
| | 到達目標：博物館での学芸業務に関わる事柄について理解し、文化財の取り扱いや保存・展示・経営・情報など学芸員の仕事についての理解を深め、自分なりの博物館像を創造する。同時に高野山に伝わる文化財を知る。 テーマ：学芸員の能力的知識と視点を養う。 |
| 博物館学各論Ⅰ | ※4回生のみ履修可。 |
| | 授業の概要 博物館での実際の業務に関わる事柄について資料論・展示論・情報論・経営論の内容で講義する。一般の博物館業務に加えて高野山霊宝館で行われる業務についても出来るだけ伝えることとしたい。加えて、高野山に伝えられる文化財についての知識や調査研究についても学ぶこととしたい。 |
| 学期 | 授業計画 |
| | 1. 講義概要 2. 資料の分類 3. 資料論1 (彫刻) 4. 資料論2 (絵画と書蹟) 5. 資料論3 (工芸) 6. 資料論4 (保存) 7. 資料論5 (修復) 8. 資料論6 (記録) 9. 資料論7 (調査研究1) 10. 資料論8 (調査研究2) 11. 博物館に行こう 12. 高野山の文化財資料論 13. 高野山における文化財の保存 14. まとめ 15. 試験 |
| 前期 | テキスト |
| 単位数 | 特になし。適宜プリント配布。 |
| 2 | 参考書・参考資料等 |
| 担当者 | 特になし。 |
| 友 鳴 利 英 | 学生に対する評価 |
| | 期末の試験(60%) 講義への参加態度(10%)、出席状況(30%)によって評価する。 3回以上の欠席は単位を認めない。 その他 一方的な講義形式ばかりではなく、講義に対しての受講者の考えを問う形も適宜取り入れていきたい。 途中、実地学習として高野山霊宝館の見学を行う。 |

| | |
|------------------|---|
| 科目名 | 授業の到達目標及びテーマ |
| | 到達目標：博物館での学芸業務に関わる事柄について理解し、文化財の取り扱いや保存・展示・経営・情報など学芸員の仕事についての理解を深め、自分なりの博物館像を創造する。同時に高野山に伝わる文化財を知る。 テーマ：学芸員の能力的知識と視点を養う。 |
| 博物館学各論Ⅱ | ※4回生のみ履修可。 |
| | 授業の概要 博物館での実際の業務に関わる事柄について資料論・展示論・情報論・経営論の内容で講義する。一般の博物館業務に加えて高野山霊宝館で行われる業務についても出来るだけ伝えることとしたい。加えて、高野山に伝えられる文化財についての知識や調査研究についても学ぶこととしたい。 |
| 学期 | 授業計画 |
| | 1. 展示論1 2. 展示論2 3. 展示論3 4. 展示論4 5. 展示論5 6. 博物館に行こう1 7. マイミュージアムを作ろう1 8. マイミュージアムを作ろう2 9. 教育論1 10. 教育論2 11. 情報論1 12. 情報論2 13. 情報論3 14. 博物館に行こう2 15. 試験 |
| 後期 | テキスト |
| 単位数 | 特になし。適宜プリント配布。 |
| 2 | 参考書・参考資料等 |
| 担当者 | 特になし。 |
| 友 鳴 利 英 | 学生に対する評価 |
| | 期末の試験(60%) 講義への参加態度(10%)、出席状況(30%)によって評価する。 3回以上の欠席は単位を認めない。 その他 一方的な講義形式ばかりではなく、講義に対しての受講者の考えを問う形も適宜取り入れていきたい。 途中、実地学習として高野山霊宝館の見学を行う。 |

| | |
|--------------------|--|
| 科目名 | 授業の到達目標及びテーマ |
| | 到達目標：博物館学芸員の職務を理解し、正しい作品の取り扱いを修得することを到達目標とする。 テーマ：博物館学芸員の基礎的資格と技術の習得 ※4回生のみ履修可。 |
| 博物館実習 | 授業の概要 |
| | 前期授業では、学内において主として古美術の取り扱いと展示の仕方等について、講義と実際にレプリカ資料を使用して学習する。前期終了後に行なわれる実習で実際の学芸員の仕事を研修し、併せて夏季休暇中に3日間程度関西地方の博物館等の学外研修を行う。前期授業及び実習の履修と夏季休暇中に実施する学外研修の参加をもって取得単位とする。 |
| 学期 | 授業計画 |
| | 1. 授業ガイダンス (その他) 2. 博物館学芸員の仕事 前期終了後、博物館での実習 3. 建築の基礎知識 夏季休暇中、学外研修(2泊3日) 4. 仏教美術の基礎知識と調査・展示の仕方(絵画) 5. 仏教美術の基礎知識と調査・展示の仕方(絵画) 6. 仏教美術の基礎知識と調査・展示の仕方(彫刻) 7. 仏教美術の基礎知識と調査・展示の仕方(彫刻) 8. 仏教美術の基礎知識と調査・展示の仕方(工芸品) 9. 仏教美術の基礎知識と調査・展示の仕方(工芸品) 10. 仏教美術の基礎知識と調査・展示の仕方(石造物) 11. 作品の取り扱い方 12. 作品の取り扱い方 13. 作品の取り扱い方 14. 作品の取り扱い方 15. 総括 |
| 学実前 外習期 修 ++ | テキスト |
| 単位数 | 参考資料を配布する。 |
| 3 | 参考書・参考資料等 |
| 担当者 | 講義中に指示する。 |
| 緒 方 啓 介 | 学生に対する評価 |
| | 欠席を最も重視し、授業に対する取り組み方と、資料の取り扱い方の習得程度を評価する。 また博物館における実習での評価と学外研修への参加を原則必修とする。 その他 ・仏教美術特殊講義(前期・後期)及び仏教美術講義演習(前期・後期)を併せて受講することが望ましい。 ・博物館実習は、博物館概論・博物館学各論Ⅰ・博物館学各論Ⅱ・生涯学習概論・教育原論の単位を含め72単位以上を修得し、全科目の平均点が75点以上の者を対象とします。 |

| | |
|-----------------------|--|
| 科目名 | 授業の到達目標及びテーマ |
| | 到達目標：今日の視聴覚メディアの状況を理解し、「メディア・リテラシー」といわれる視聴覚教育の基礎知識の獲得を目標とする。 テーマ：激変している視聴覚メディアの現況を、歴史と構造の視点から分析する。 ※4回生のみ履修可。 |
| 視聴覚教育 | 授業の概要 |
| | インターネットの普及により、伝統のメディアである新聞、雑誌・出版、ラジオをはじめ、最強の視聴覚メディアであるテレビ・映画も打撃を受けている。しかし、何が変わるようとしており、何が変わらないのか。視聴覚メディアの発展の過程をたどりつつ、視聴覚メディアの強さ弱さについて、具体的に検証していく。 授業では、珍しい多様な映像を多く使用して、授業自体を視聴覚教育のモデルとしていく。(全7回) |
| 学期 | 授業計画 |
| | 1. 視聴覚教育とは何か。メディア現況の問題点。 視聴覚メディア前史(人間はそもそも何を伝えようとしてきたのか。言葉の発生と、言葉が時間空間の制約から解放されていく過程。) 2. 伝達の距離・範囲・速度の追求の過程。 電気時代の幕開きで何がどのように変わったか。 3. 映像というニューメディアの発明。 初めて映像を手にした人間は何を撮影し何を伝えようとしたのか。 4. 映像メディアの表現技術・説得技術の進化。 映画史、テレビ史に見る苦闘の過程。 5. 分離された映像と音声の再結合。サイレント映画からトーキー映画へ。新技術を拒否した男・チャップリン。 新発想を生かしたメディアがテレビジョン。 6. 伝送技術とネットワークの発展。静止衛星の発見発明と海底ケーブル網。 「地球村(グローバル・ビレッジ)」誕生の衝撃。 7. インターネットの出現。視聴覚メディアの可能性。 |
| 集中 | テキスト |
| 単位数 | 毎回レジュメ配布 |
| 1 | 参考書・参考資料等 |
| 担当者 | 授業中随時紹介 |
| 座 間 味 朝 雄 | 学生に対する評価 |
| | 授業終了後の課題レポート50%、授業参加状況と、数回の小レポート50% その他 |

| | | |
|-----|---|-------|
| 科目名 | 考古学講義 I 授業の到達目標及びテーマ 到達目標：考古学に関する基礎知識を習得する。 テーマ：考古学は人間の営みを解き明かす学問であることから、体験学習（火起こし・石器作りなど）も積極的に取り入れ、ヒトの行動について考える。 ※4回生のみ履修可。 授業の概要 考古学の対象は、人類の誕生から一瞬まえの出来事まで、全人類が歩んだ時代すべてを取り扱う。旧石器時代から縄文時代を取り上げ祖先の歩みを通じて、環境問題、人類の抱える矛盾について考古学の立場からわかりやすく解説し理解を深める。 授業計画 1. 考古学とはなにか。 2. 考古学の歩んだ道 3. 考古学はどのように研究するのか。 4. 考古学と関連科学について 5. 人類の誕生について 6. 体験学習①：火を起こしてみよう 7. 旧石器時代とその環境 8. 旧石器時代の地域性 9. 体験学習②：石器を作ってみよう 10. 土器の登場 11. 縄文時代とその環境 12. 縄文時代の地域性 13. 縄文時代の集落と墓 14. 縄文人はなにを食べていたか 15. 縄文人と弥生人 テキスト 必要に応じてプリントを配布するので教科書は必要なし。 参考書・参考資料等 安藤政雄『考古学キーワード』1997 有斐閣双書 学生に対する評価 出席、授業態度、テスト（レポート含む）などによって総合評価する。 その他 考古学は難しくはありません。楽しく学びましょう。 ※土曜日開講 ※今年度は隔週開講になります。 | |
| | 学期 | 前期 |
| | 単位数 | 2 |
| | 担当者 | 富加見泰彦 |

| | | |
|-----|---|-------|
| 科目名 | 考古学講義 II 授業の到達目標及びテーマ 到達目標：考古学に関する知識を学習する。 テーマ：考古学は人間の営みを解き明かす学問であることから人間が遺したモノを使って生活を復元し原始・古代の文化と社会を探る。 ※4回生のみ履修可。 授業の概要 考古学からみた古代社会について弥生時代から奈良時代まで通史的に映像をまじえ生産と流通について講義を行う。体験学習として勾玉の製作を行う。 授業計画 1. 考古学とは何か。（前期の復習） 2. 稲作の伝播 3. 弥生時代の土器と石器 4. 集落と墓 5. 金属器の登場—銅鐸の話— 6. 弥生から古墳へ 7. 古墳の出現 8. 体験学習①：石製模造品（勾玉等）をつくってみよう 9. 倭の五王の時代 10. 古墳時代の土器 11. 東アジアの動向 12. 横穴式石室の世界 13. 古墳時代の生業 14. 終末期の古墳 15. 古代寺院の成立と展開 テキスト 必要に応じてプリントを配布するので教科書は必要なし。 参考書・参考資料等 安藤政雄『考古学キーワード』1997 有斐閣双書 学生に対する評価 出席、授業態度、テスト（レポート含む）などによって総合評価する。 その他 考古学は難しくはありません。楽しく学びましょう。 ※土曜日開講 ※今年度は隔週開講になります。 | |
| | 学期 | 後期 |
| | 単位数 | 2 |
| | 担当者 | 富加見泰彦 |

| | | |
|-----|---|-------|
| 科目名 | 法式 I + 法式 II 授業の到達目標及びテーマ 到達目標：僧侶としての基礎を学ぶ テーマ：道場荘嚴の基礎 授業の概要 真言宗の僧侶として必要な道場荘嚴の基礎知識と道場荘嚴の意識を解説する。 授業計画 【前期】 1. 講義内容の説明 2. 道場荘嚴の解説並びに六種供養について (1) 3. 道場荘嚴の解説並びに六種供養について (2) 4. 道場荘嚴の解説並びに六種供養について (3) 5. 道場荘嚴の解説並びに六種供養について (4) 6. 道場荘嚴の解説並びに六種供養について (5) 7. 道場荘嚴の解説並びに六種供養について (6) 8. 道場荘嚴の解説並びに六種供養について (7) 9. 道場荘嚴の解説並びに六種供養について (8) 10. 道場荘嚴の解説並びに六種供養について (9) 11. 道場荘嚴の解説並びに六種供養について (10) 12. 道場荘嚴の解説並びに六種供養について (11) 13. 道場荘嚴の解説並びに六種供養について (12) 14. 道場荘嚴の解説並びに六種供養について (13) 15. 前期試験 【後期】 1. 講義内容の説明 2. 坦荘嚴の解説 (1) 3. 坦荘嚴の解説 (2) 4. 坦荘嚴の解説 (3) 5. 坦荘嚴の解説 (4) 6. 坦荘嚴の解説 (5) 7. 坦荘嚴の解説 (6) 8. 坦荘嚴の解説 (7) 9. 坦荘嚴の解説 (8) 10. 坦荘嚴の解説 (9) 11. 坦荘嚴の解説 (10) 12. 坦荘嚴の解説 (11) 13. 山内諸法会の解説 (1) 14. 山内諸法会の解説 (2) 15. 後期試験 テキスト 大山公淳著『真言宗法儀解説』 他コピーを配布 参考書・参考資料等 学生に対する評価 定期試験80% 出席20% その他 | |
| | 学期 | 前期 |
| | 単位数 | 2 + 1 |
| | 担当者 | 中西雄泰 |

| | | |
|-----|--|-------|
| 科目名 | 声明 I + 声明 II 授業の到達目標及びテーマ 到達目標：基本の法要となる理趣三昧法会に使われる声明を研鑽する テーマ：僧侶として必要な声明を基礎から学ぼう 授業の概要 日本音楽の基礎となった仏教音楽の「声明」を、我々が法要などで用いる「南山進流」声明を基礎の導入部分から学ぶ。 授業計画 【前期】 1. 声明の楽譜、音階、演奏方法（旋律型）の解説及びオリエンテーション 2. 三礼・ 3. 四智梵語・ 4. 四智梵語・ 5. 大日讚・ 6. 大日讚・ 7. 不動讚 8. 四智漢語 9. 四智漢語・心略漢語 10. 心略漢語・ 11. 仏讚 12. 仏讚・散華（初段目） 13. 散華 14. 散華（二段目） 15. 散華（二段目） 【後期】 1. 声明の楽譜、音階等音楽理論及びオリエンテーション 2. 散華（3段目） 3. 散華（3段目） 4. 対揚 5. 対揚 6. 対揚 7. 対揚 8. 唱礼（金剛界） 9. 唱礼 10. 唱礼 11. 唱礼 12. 理趣経（中曲） 13. 理趣経（中曲） 14. 理趣経（中曲） 15. 理趣経（中曲） テキスト 宮野有智編『南山進流声明類聚・附伽陀』（注、必ず同一の声明類聚を購入又は持参する事） ※生協で購入可 参考書・参考資料等 小山公淳著『真言宗法儀解説』 ※生協で購入可 学生に対する評価 随時小テストを実施する。（実施日等は授業中に伝達する） 出席30%、平常店20%、小テスト50パーセント その他 筆記用具は鉛筆（シャープペンシル）等、後で修正出来る筆記用具を必ず持参すること。 ※後期を履修する者は、前期も履修すること。 | |
| | 学期 | 前期 |
| | 単位数 | 1 + 1 |
| | 担当者 | 辻秀道 |